

2005年6月

人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会

〒567-0883 茨木市大手町 7-26

FAX 072-626-6519

E-mail yoshihara@gold.ocn.ne.jp

歯の衛生週間に入る前に、また歯科医師の感染症に対する問題がクローズアップされました。それだけでなく5月・6月は口内炎や口腔軟組織炎の多発な時期です。「まさか子どもが…」という一瞬の油断が命とりになりかねません。重大な医療事故が主要病院で半年間に530件を超えている事を見ても、歯科医師だからこそ事前に発見して対処することができる、自らを戒めるべき時がきたといえましょう。

未だにむし歯に追われている地区があるのも事実ですが、母親に「むし歯が無くてよかった～」と安心させてしまうこれまでの集団歯科検診の習慣は、少なくとも人間歯科学研究会会員からは消え去ってほしいものです。

1歳児でも歯肉炎を認めることがあり、2歳児でも歯石沈着や歯周病菌を認めることがあります。

乳歯が全歯萌出している3歳児では、歯・歯列咬合・軟組織の全てに疾患を生じていることもあります。

むし歯だけを見ていると、他の部分の人姿を診のがすことになりかねません。これでは人間歯科学研究会の理念に反します。

歯科医師による視野が狭ければ、当然患者の視野も狭くなります。裸眼で診るだけでなく拡大鏡や手術顕微鏡を用いたり、口腔内カメラで拡大してモニターを見ながら、指導や治療をする技術を身につけておくことも必要な時代になっています。歯科医師が口腔内を診るだけでなく、一般の人たちにも頻繁に口腔内を観てもらう運動を広めたいと思います。

今回は、お手持ちのテレビ画像入力用の黄色いピンにジャックを差込むだけでスイッチが入り、最も扱いやすく安価な口腔内カメラ「見歯るくん」のモニターを募集いたします。アンケートにお答えいただくだけで1週間使えます。患者さんにも人気で、貸し出しを希望される方もいますので、複数台でも準備ができます。興味がありましたらFAXかE-mailでお申し込み下さい。テスト用の「平穴植毛歯ブラシ」をつけてお送りします。

「口腔内カメラで前歯の裏側と奥歯の溝を見る」が、今月の合い言葉です。